



シオン会だより

Ibaraki Christian Junior College Alumni Association

2022年12月25日第17号 発行・編集／茨城キリスト教大学短期大学部同窓会シオン会
〒319-1295 代表／会長 酒井 範雄
茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL・FAX 0294-52-8899(直通)
E-mail : ic-dousou@icc.ac.jp TEL 0294-52-3215(代)
URL <https://www.icc.ac.jp/shionkai/>



大学新1号館



大学新1号館グローバルラウンジ(5F)



高校4号館

目次

1. 表紙・目次(佐藤光正氏撮影)
2. 新任のあいさつ
会長退任のご挨拶
3. 建学の精神をつなぐ新校舎
シオン館の古びた空気を吸いながら
4. 全校野球応援、弾ける笑顔!!
苦しみを通してこそ開かれる世界がある
教室便り 学園ノスタルジー
5. 2022年度定期年度幹事総会書面審査報告
ひたち紅寒桜
6. 茨城キリスト教大学
短期大学部同窓会(シオン会)役員一覧
2022年度事業計画
7. 茨城キリスト教大学短期大学部同窓会会則
8. 本会活動資金に充当する寄附金募集のお願い
大学名誉教授及び大学短期大学部学部長並び
に本会顧問瀧田薫氏の学園退職記念スピーチ
報告
9. 根本会長、酒井事務局長の退任感謝状贈呈報告
9. 本会役員ZOOM講習会開催の報告
各支部だより
10. ロシアによるウクライナ戦争を考える
— 狂ってしまった平和 —
10. 茨城キリスト教学園同窓会連合会から
11. コラム 偶然の出会いと気づき
12. 2023年度第37回 園遊会のお知らせ
シオン会会費納入
並びに住所変更届出のお願い
編集後記



新任のあいさつ

茨城キリスト教短期大学部同窓会
会長 酒井 範 雄

今年度より同窓会会長をお引き受けいたしました第十四回教養科卒業の酒井範雄です。前根本会長よりの禪渡し非常に重く、如何に次へバトンタッチするか悩みましたが、出来る限り全力を傾注してまいる覚悟でございます。新型コロナウイルスにより会もこの二年の間いろいろな行事も取り止めになっております。早く終息して正常に戻ってほしいものです。今後は自分の間ウイズコロナとしての生活状況かと思えます。当短大も平成十八年(二〇〇六)には大学に発展的改組され廃止されました。それまでの卒業生は一八、〇〇〇名余りなり、同窓会も第一回卒業生の吉田丈夫氏が、初代会長として今日まで続き卒業生の皆様に、学園の状況等毎年発刊の「シオン会だより」を通してお知らせし、同窓生相互の意見交換・絆を強めてまいりました。少子化やグローバル化など大学(学園)を巡る環境は大きく変わりつつあるなか、生き残るために改革を迫られている現状にあると思えます。本学園も今年から名誉会長になられた根本龍哉氏は、学園理事の監事として学園運営の役にたずさわられることとなり、多いに期待されるところであります。



会長退任のご挨拶

茨城キリスト教短期大学部同窓会
名誉会長 根 本 龍 哉

今年度は新しく一号館(大学・四号館(高校)の校舎新築も終り、八月に披露式が実施され一段と充実されました。「シオン会だより」十六号に記載されました、学園中学・高校校長のランドルW・ヴォス先生の教育への

対談の中にも、教育への熱い思いが語られています。教職員の学園・生徒に対する思いやり、これからの学園発展のためには一番必要なことであると思えます。私達卒業生は二年間という短い期間ではありましたが、人生の中で特に充実した間ではなかったでしょうか。今後も卒業生として母校発展のため微力ではありますが、寄与していく考えであります。卒業の皆様、今後も学園の発展と本会の活動にご協力の程お願いいたします。

今、日本社会は急速な人口減、ウイズコロナ、物価高騰と円安経済等で暮らし難い様相となつていますが、会員の皆様方には本会活動にご支援とご協力を戴いております事に心より御礼申し上げます。この度私は二〇二二年四月を以つて会長職を退任し、新たに名誉会長に就任することになりました。多年に亘る在任中、皆様から多大なるご協力とご支援を戴きました事に改めてお礼申し上げます。七十年余の歴史を持つ本会はこれから酒井新会長のもとで活動を続けていくこととなりますが、私は名誉会長として引き続き活動して行きますのでよろしくお願い致します。

そこでこれから新会長の下で活動を続ける礎とする為に、これまでの歩みを明記して置きたいと思えます。最初に一九九二年から始まった十八歳人口の急減に対応する為に日本の大学と短大は多様な資格取得化、共学化や短大の四大化を図り学生確保の強化策を行いました。本学園理事会でも(以下理事会という)は一九九九年に日本最古の本短期大学を茨城キリスト教短期大学部(以下大学短大部)に名称変更させ、二〇〇〇年四月に大学と短期大学を統合させ、文学部・生活科学部・短期大学部の三学部からなる新生茨城キ

リスト教大学をスタートさせました。本同窓会も同時に現名称に改名しました。その後理事会は二〇〇三(平成十五)年に大学短大部の全資産と全学生定員を大学に移管、全教員と事務職員も大学学部に移籍させ改組転換を図りました。これと同時に一八、〇〇〇余名の卒業生の学籍・成績原簿等を大学教務部と学生部に移し永久保管されることになりました。従ってこれは大学短大部の廃止ではなく発展的に改組させて大学を拡大し発展させる為の措置でありました。二〇〇四年度には大学文学部キリスト教学部を廃止、大学短大部学生募集停止、その間に看護学部を開設させました。二〇〇六年度には大学短大部を廃止させましたが、同時に理事会は大学短期大学部同窓会組織の維持を重視し、本会の維持と更なる活動の為に学園資金を援助して同窓会の存続と活動について万全を期すことが決定されました。更に理事会は学園事務局の組織として、常設の同窓会担当部署を置く措置を講ずることになりました。母校の存廃についてはそれがいかに重大な社会的影響をもたらすか、また深刻な意味を持つか重々承知の上で、理事会は学園の将来に希望をもたらず為に決断しましたので、何卒御諒承下さるようお願いいたしますとの要請文書を本会は戴きました。本会は二〇〇四年に本会の総意として機関決定し、理事会との協議会において故廣瀬正理理事長に本会活動費支援と会報発

行経費の支援を含む七項目の支援策の提示を了承する旨の返答を致しました。

この様な本学園教育改革期中で、私が二〇〇三年に本会員の皆様から会長就任の要請がありました。本会にとつては実質的な再出発となることから、その重責を果たすことは難しいと考えましたが「全ての出来事には定められた時がある」という格言に従い、お引き受けする事にしました。直ちに役員会や総会を開き理事会支援策を定め、一〇項目の活動方針を定めました。①これから独自で活動運営費を確保する為に年度会費と募金制度創設及び広告料獲得等に万全を尽くすこと。②大学短大部学報「シオンニュース」に替わる本会会報「シオン会だより」の発行。③毎年園遊会開催と学園祭参加。④同窓会名簿の作成と管理。⑤年度幹事総会、役員会等の開催。⑥本会事務局と専従者設置。⑦水戸支部・日立支部・東京支部活動。⑧学園同窓会館建設募金活動の実施。⑨周年事業の創設。⑩文学部と短大部同窓会連合協議会設置等を決定しました。この方針に基づく実績としては①安定的な年会費や寄附金の確保を実現。②会員相互親睦の向上。③毎年発行会報「シオン会だより」現在第十七号。④学園記念館(同窓会館)建築費募金活動と建築実現。⑤十七回の園遊会開催と学園祭参加(但しコロナ禍で連続三年中止、収束次第再開)。⑥第六十周年記念名簿、第七十周年記念名簿発刊と広告料受入れ。⑦

⑧この様な本学園教育改革期中で、私が二〇〇三年に本会員の皆様から会長就任の要請がありました。本会にとつては実質的な再出発となることから、その重責を果たすことは難しいと考えましたが「全ての出来事には定められた時がある」という格言に従い、お引き受けする事にしました。直ちに役員会や総会を開き理事会支援策を定め、一〇項目の活動方針を定めました。①これから独自で活動運営費を確保する為に年度会費と募金制度創設及び広告料獲得等に万全を尽くすこと。②大学短大部学報「シオンニュース」に替わる本会会報「シオン会だより」の発行。③毎年園遊会開催と学園祭参加。④同窓会名簿の作成と管理。⑤年度幹事総会、役員会等の開催。⑥本会事務局と専従者設置。⑦水戸支部・日立支部・東京支部活動。⑧学園同窓会館建設募金活動の実施。⑨周年事業の創設。⑩文学部と短大部同窓会連合協議会設置等を決定しました。この方針に基づく実績としては①安定的な年会費や寄附金の確保を実現。②会員相互親睦の向上。③毎年発行会報「シオン会だより」現在第十七号。④学園記念館(同窓会館)建築費募金活動と建築実現。⑤十七回の園遊会開催と学園祭参加(但しコロナ禍で連続三年中止、収束次第再開)。⑥第六十周年記念名簿、第七十周年記念名簿発刊と広告料受入れ。⑦

本会事務局と専従員の充実。⑧事業活動基金の設置。⑨学園同窓会連合の結成と同窓会倉庫設置。⑩学園募金活動の協力。

最後に本会は二〇二二年五月から酒井範雄新会長の下に船出しました。今年度は気候変動と環境破壊、終息しない新型コロナウィルス、侵略戦争と民主主義の危機、食料危機やエネルギー問題等により我が国ばかりでなく世界規模の問題になっています。この先行きの見えない不安な社会経済状況の中にあつて



建学の精神をつなぐ 新校舎

学園理事長

笹尾 光

も、やがて人類はAIを使い、知により新共存社会を構築させ、新しいデジタル社会を出現させることでしよう。本学園はこれに対応した令和の大教育改革に取り組むことになるでしょう。これから本会は会員の繋がりをどう進めていくかが重要な課題になります。正に酒井新会長の下で新しい活動が始まり、新たな期待と希望の同窓会になるでしょう。今後とも皆様のご協力とご支援をよろしくお願い致します。

二〇二二年、ウクライナの戦禍はやまず、日本では六月から猛暑に襲われ各地で豪雨被害も重なった年。終わりのはっきりしないウイズ・コロナ。しかし学園の教育活動は「シオン祭」で最後まで立ちはだかつていた。対面開催の壁が学生たちの知恵と工夫で乗り越えられるなど、新たな活気に包まれています。

最上階の全面ガラス張りの広大なラウンジからは、大みかの青い空と太平洋の青い海が一望にできます。皆さま来園なさる時は、ぜひ晴れた日にご覧になってください。このラウンジは、外資系のオフィスがコンセプトです。従来の教室の枠を越えて、自由な発想で世界を見据えた新しい学びを生み出していく場になることを期待しています。外国語や異文化を吸収するためのスペースや、地域の方に向けた教室も整えました。

副学長時代の二〇一六年にも紙幅を割って頂きました。文学部長の池内耕作です。「ん？降格したの？」と思われた方、本学ではこれを「降格」とは称しません。私がかえた前学長の東海林宏司も、現在は現代英語学科の一教員として、教務委員と

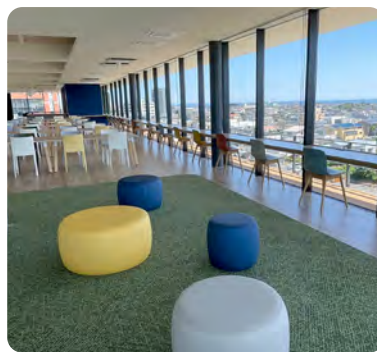


シオン館の 古びた空気を吸いながら

文学部長

池内 耕作

して、涙を禁じ得ぬコキ使われぶりですが、これも断じて降格ではありません。与えられた場所です。学風とも誇りとも高らかに歌い上げるべきところ、涙ぐましく体現する兩名をどうかお支え下さい。



ところで私は就任以来、学園北端の住人でしたが、此度の大学新一号館竣工に際し、多くの教職員とともに南エリアに大移動してきました。多くは晴れてピカピカの新棟に入居しましたが、私はカピカピのシオン館三階一号室に。老若関係なく部屋割りにはクジ引きで決めよう！と格好つけた私、実はシオン館が大好きでこの部屋を自ら希望したのです。

一九八〇年竣工のシオン館、建築思想も明らかにその後の建屋とは違います。経年美を放つこと誠に鮮やかな建屋です。つい先日まで、副学長室も文学部長室も階下の一階にあり、口角泡を飛ばした日々の記憶も深い。そもそも私は古いものを好みます。この味わい、ピカピカの新棟なぞ足元にも及びません。ふん、赤ちゃんめ。

ただ私は歴史を知りません。この一号室も、元々は初代学長・草壁泰之先生のお部屋で、その後は滝田薫先生のお部屋だったことを、入室後に知りました。大先生方、この窓からこの草木を愛でておられたらうな、学生達と談義されたらうなと感じ入ります。壁にも絨毯にもいちいち歴史を問いたくなる大穴やシミが展開。滝田先生に会ったら色々聞いてみようかなと思うことも増えました。

歴史は繰り返さないが韻を踏む(マーク・トウエイ)。この贅沢な空間で、少しでも歴史をたぐり、韻を踏んでいかねばと、思っています。



全校野球応援、 弾ける笑顔!!

中学校高等学校副校長

杉浦 聖 美

私は今年度から副校長を任されることになったが、一九九六年度に応援実行委員としてチアガールを中心とした全校応援の担当を任されてから今年度で二十七年目になる。

茨城県では定番である全校野球応援がここ二年間は封印されていた。一昨年度は、高校野球の大会自体が中止となり代替大会となった。昨年度は、大会自体は行われたものの一般生徒の応援は禁止された。この間も全校野球応援があるものと信じ、応援関係の生徒たちは練習を重ね準備してきただけに、できないと分かった時の落胆はあまりにも大きかった。

今夏、三年ぶりに夏の高校野球が全校応援で行われた。立っての応援や声を出しての応援は禁止されたものの、全校応援での夏の高校野球が戻ってきた。力強い大太鼓の音に合わせ、躍動する吹奏楽の音色と華やかなチアガールの踊りが、三年間の思いを乗せて球場中を熱気で包み込んだ。この全校生の思いを受け、野球部もまた二回戦ではAシードの水戸商を破り、ボルテージは最高潮となって生徒たちの笑顔が弾けた。

本大学の生活科学部が、日本最高峰のプロバスケットボール

B1リーグで活躍する茨城ロボッツのサポートをすることになったのをきっかけに、本校チアガールが茨城ロボッツ公式戦のハーフタイムショーに出演する機会をいただいた。五月四日、アドストリアみとアリーナにて、さらには十月十六日に池の川さくらアリーナにて三千人を超える観客の前で、堂々と最高のパフォーマンスを披露することが



苦しみを通してこそ 開かれる世界がある

学園チャプレン

野口 良 哉

できた。歴代のチアガールの部員たちは、踊り、声、笑顔を高レベルで意識して練習し曲を作り上げてきた。この伝統が受け継がれ、築き上げてきた活動が認められて今回の出演の機会が与えられたのだと思う。

長年のチアガールの活動が、地域から必要とされる存在になったことの喜びを感じる。

感謝に堪えない。

コロナの影響により様々な活動が制限されてきたが、少しずつ生徒たちの活動の場が増えつつある。多感な中高生の時期に、多くの活動の場が作られ笑顔で満ち溢れた学校生活を送ってくださることを期待したい。

かつて、米国『ワシントンポスト』誌がこんな実験をしました。一回の演奏で軽く三〇〇万円の出演料を稼ぐ世界的なバイオリニスト、ジョシユア・ペルを雇い、その手には三億円は下らないと言われる高級バイオリン、一七一三年製のストラディバリウスを持たせて、しかも、その正体を一切明かさずに、ワシントンDC郊外のある地下鉄の入口付近で路上ライブをさせたのでした。その日の演奏で、

彼の名演奏を一分以上立ち止まって聴いた人はわずか七人。演奏者の前に置かれた箱に集まったお金はわずか三二ドルと一七セント、現在のレートで四、七〇〇円程でした。…どんなに素晴らしい名演奏がなされても、聴き手側に「聴く耳」がなければ全く意味がないということではないでしょうか?と同時に、このことは裏を返せば、思わぬ形で素晴らしい恵みを受け止めることもあり得るということでは



教室便り 学園ノスタルジー

茨城キリスト教短期大学

元学長 瀧田 薫

茨城キリスト教学園を退職して約半年になりますが、最近引退生活(年金ぐらし)にやっと慣れてきた感じです。七〇歳までは週に最低五日通勤(往復約一六〇キロ)していましたし、七〇歳から七五歳までは非常勤講師と

して週二日通っていました。それがゼロになった時、なにか糸がプツンと切れたような感じがありました。身体的にはよほど楽になったはずですが、心理面で予期せぬストレスに苦しみました。「就職できずに苦しむ夢」

ないでしょうか? キリスト教信仰に基づく医学を提唱した、スイス人医師ポール・トゥルニエは、次のように述べています。「苦しみに遭うことを抜きにして、ある世界は開かれない」。換言すれば、「苦しみを通してこそ開かれる世界がある」ということではないでしょうか? 想定外の苦難の中でこそ、予期せぬ恵みが備えられていた

水野少年に瞬きを合図に言葉を見拾わせ、なんと試作の才能を見出しました。瞬きの詩人、水野源三の誕生です。…「苦しみに遭うことを抜きにして、ある世界は開かれない」。水野源三さんが、その苦しみに遭って、開くことになった世界、水野源三ワールドの一端を紹介しましょう。

「悲しみよ」という水野さんの詩です。「悲しみよ、悲しみよ、本当にありがとう。／お前が来なかつたら、つよくなかつたら、私は今どうなつたか。／悲しみよ、悲しみよ、お前が私をこの世にはない大きな喜びが、かわらない平安がある主イエスのみもとにつれて来てくれたのだ。」

私たちも今、地球規模の脅威としてのコロナ禍が続き、世界平和が揺らぐ苦しみの中にありますが、そんな苦しみを通してこそ開かれる世界にしっかりと目を留めたいものです。

です。七十五歳にもなつてすでに引退した人間がみる夢とも思えませんが、若いとき、就活に悩んでいた当時の記憶が私の脳にこびりついていたということなのでしょう。悪夢から解放されたのは、春が過ぎて夏になった頃でした。自分は樂觀的な方だと思つてきました。ところが、そうでもなかったようです。通勤しなくなり、学園とご縁が薄くなったことは否めませんが、茨城新聞を読んでいると無意識に学園の情報がいか探す癖ができました。時々学園のホームページが更新されていないか覗いてみたりもしています。

この秋の公開講座（「現代世界論」）を週一回（土六回）担当します。講座内容は「ウクライナ戦争」「米中覇権争い」「政治と宗教（カルト論）」「世界の安全保障」「世界経済の現在」といったテーマで構成する予定です。まとまりがない講座になりそうですが、受講生の皆さんから面白いと言っていただけのような講座にしたいと思つています。

一つ、余計なことですが、提案があります。地方私学が生き残るには、同窓生の皆さんと地域の市民からのご支援は絶対に欠かせない大切な資源でしょう。同窓会との連携や公開講座の充実（専任教員による各学部最低一講座の常設）など、さらなる強化策をご検討いただければ幸いです。「釈迦に説法」ではありますが、どうぞご海容ください。

二〇二二年度 定期年度幹事総会報告(書面審査)

二〇二二年四月二十三日

二〇二二年度定期年度幹事総会開催する為、会長副会長事務局長等で構成する常任役員会で総会提案を審議し、その後定例役員会で審議決定しました。その結果、三月から新型コロナウイルス感染症の第六波が始まり、四月末にはかなり感染が蔓延する事が予想されるので、県内外から大勢の年度幹事の皆様に集まり戴いて総会を開く事は感染防止の観点から適切でない判断しました。従つて、本則第一二条二項で定める「疫病感染や天災が起こり、定期年度幹事総会の開催が難しい時には、会長は定期総会を書面審査によることのできるものとする。」の規定に基づき今年度も書面審査総会にする事に致しました。お陰様で年度幹事様各位から異議の連絡が無かつた事から最終決定となりました。総会決定事項は次

二〇二二年四月二十三日

の通りとなりますので会員の皆様にお知らせいたします。

議題一は、会則の一部改正です。決定した改正箇所のみ掲載します。

第二章 組織
 第五条一三
 本会に名譽会長を置く。名譽会長は終身とする。

本会に顧問を置く。

第六条一四
 名譽会長は、会長の在任期間に副会長及び事務局長の在任期間を加えて十五年以上務め本会の発展に著しく貢献した会長の退任時に、役員会で審議し、年度幹事総会に於いて選出する。

第六条一五
 顧問は役員会の推薦する者の中から会長が委嘱する。

第七条一
 (一)副会長は会長を補佐し、会長が止むを得ない事由がある時はこれを代行する。その順番は別に定める。

(二)名譽会長は必要に応じて常任役員会、定例役員会、年度幹事総会に出席し、意見を述べる事ができるものとする。

議題二の新役員選出です。下記の通り決定しました。

①新会長(任期二〇二二年四月二十四日から二年間)
 酒井範雄(第一四回卒)

②名譽会長(任期二〇二二年四月二十四日から終身)
 根本龍哉(第一二回卒)

③二〇二二年四月からの役員は次の役員一覧の通り選出されました。

議題三は二〇二二年度定期年度幹事総会開催方法については書面審査による事に決定しました。今年度の幹事総会開催は新型コロナウイルス感染症が六回目の蔓延が三月から始まりさらに蔓延する状況にある事から開催は無理であると判断し、本会則の規定により定期総会を書面審査により行う事にする。この総会議案を書面にして三〇〇余の年度幹事様に郵送し、了承戴くようにしました。どなたからも異議の連絡がありませんでしたので、書面審査より承認されましたのでお知らせします。

議題四は第三十七回園遊会開催についても中止を決定しました。年度幹事総会と園遊会は同日に行う計画でしたがこれも中止とすることで決定しました。この感染症による中止は三回になります。二〇二三年の開催は、ウイズコロナでも開催できないので、それまでお待ち下さい。

議題五は二〇二二年度事業報告並びに決算報告案。議題六は二〇二二年度事業計画並びに予算案は掲載の表の通り決定しました。報告事項一は、本学園同窓会連合の倉庫を学園記念館裏側に建設しました。

学園の土地に建設するので、笹尾光学園理事長と学園同窓会連合代表・大学短大部同窓会長根本龍哉との間で用地借用覚書を取り交わした上で建設した。倉庫使用は高校、大学短大部、大学同窓会が共同で使用します。



ひたち紅寒桜

元理事田尻耕造氏にご尽力いただき植樹したひたち紅寒桜が十年経ちました。

茨城キリスト教大学短期大学部同窓会(シオン会)役員一覧

任期：2022年4月23日から2024年3月31日まで

名誉会長	根本 龍哉(12回卒)	理事	中村 美幸(25回卒)	吉成 浅子(25回卒)
会長	酒井 範雄(14回卒)		根本三喜男(25回卒)	内田さき子(30回卒)
副会長	野澤 知行(12回卒) 岩淵 延子(12回卒)		渡辺 典子(34回卒)	海老澤由美子(35回卒)
	庄司 良子(13回卒) 細谷由紀子(22回卒)		荒木 孝子(37回卒)	藤森 結花(37回卒)
	中村 純子(29回卒)		根本由美子(40回卒)	大貫 清子(40回卒)
理事	川崎 芳男(3回卒) 茅根 弘道(7回卒)		栗林 久代(43回卒)	綿引美知枝(43回卒)
	澤 茂子(7回卒) 佐藤 敏光(7回卒)		梨子下希衣子(43回卒)	松浦惠理子(47回卒)
	長谷川正徳(8回卒) 小林多美雄(9回卒)	事務局次長	大島 澄江(17回卒)	小林 里衣(55回卒)
	山崎 愛子(9回卒) 小瀧 罔雄(11回卒)	事務局主事	中村 美幸(25回卒)	梨子下希衣子(43回卒)
	横須賀敏雄(13回卒) 嘉成 洋(13回卒)	監事	佐藤 敏光(14回卒)	内田さき子(30回卒)
	酒井 範雄(14回卒) 佐藤 光正(14回卒)	顧問	仲川 武夫(8回卒)	
	小野 勝子(16回卒) 石井 正子(16回卒)		瀧田 薫(茨城キリスト教大学短期大学部教授)	
	平野さち子(16回卒) 大島 澄江(17回卒)		染谷 智幸(茨城キリスト教大学短期大学部教授)	
	中村 朋子(17回卒) 福地 光雄(20回卒)		堀口 悟(茨城キリスト教大学短期大学部教授)	
	武子みち子(22回卒) 桐上 知子(23回卒)			

2022年度 事業計画

茨城キリスト教大学短期大学部同窓会シオン会
自2022年4月1日～至2023年3月31日

期日	会場	内容
2022年 4月23日(土)		2022年度定期年度幹事総会は書面審査で実施 第37回 園遊会は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催できない。少しでも会員同士のコミュニケーションを図る為写真展や会報に掲載しますので、日常生活や風景や地域イベント等皆に知らせたい、見てもらいたい写真をメールや郵便で事務局までお送りください。デジタル社会でもありネットワークによる絆の構築もしていきたいと思います。
5月14日(土)	学園記念館 (同窓会館)	根本前会長並びに事務局長退任記念感謝状の贈呈式
6月9日(木)	学園記念館 (同窓会館)	第1回編集委員会開催 ・「シオン会だより」第17号編集について
9月24日(土)	学園記念館 (同窓会館)	第1回 定例役員会 ・同窓会活動の現状分析と評価、課題取組の検討 ・2023年度第37回園遊会の検討、新型コロナウイルス感染症収束の見通しについて協議(第1回目) ・第74回学園祭シオン祭参加について(オンラインによる開催の時には不参加) ・「シオン会だより」第17号の発行作業進捗状況 ・各支部報告、支部活動についての検討 ・会議終了後、第1回オンライン講習会開催
10月8日(土)	学園記念館 (同窓会館)	第2回オンライン講習会開催 ・臨時常任役員会開催シオン会だより掲載の為に、2023年度第37回園遊会開催の検討、新型コロナウイルス感染症収束の見通しにより判断(第2回目)
11月3日(祝)		第74回 学園祭シオン祭 参加できることになって、内容の検討が必要である。
12月25日(日)		「シオン会だより」第17号発行 ・年度会費納入依頼(2022年～2024年度分)
2023年 1月26日(木)	学園記念館 (同窓会館)	第1回 常任役員会(会長、副会長、事務局長等で構成) ・2023年度定期年度幹事総会開催について協議する。 ・新型コロナウイルス感染症収束状況の見通しにより判断する。 ・2022年度事業報告並びに決算報告 ・2023年度事業計画案並びに予算案 ・編集委員会の編集方針報告 ・支部活動についての検討
3月25日(土)	学園記念館 (同窓会館)	第2回 定例役員会 ・第37回園遊会の検討 ・2022年度事業報告並びに決算報告 ・2023年度事業計画案並びに予算案 ・編集委員会の編集方針の検討 ・「シオン会だより」第18号についての検討 2023年12月25日発行 ・その他

2021年度決算並びに2022年度予算

自 2021年4月1日～至 2023年3月31日

収入の部

単位：円

科目	2022年度 予算額	2021年度 決算額	摘要
会費	885,000	1,050,000	
前年度繰越金	291,774	294,635	前年度より繰越金
学園援助金	2,850,000	2,849,928	学園より運営助成金、シオン会だより発行費
園遊会基金	0	0	
寄付金	0	0	
雑収入	100	5	預金利息等
合計	4,026,874	4,194,568	

支出の部

単位：円

科目	2022年度 予算額	2021年度 決算額	摘要
事業費	10,000	0	
園遊会費	0	0	
親睦会費	10,000	0	
活動助成費	210,000	200,000	
クラス会費	10,000	0	5,000円/1クラス会
支部活動費	200,000	200,000	水戸支部、日立支部
会議費	205,000	205,602	
定期幹事総会費	25,000	24,502	
役員会費	50,000	58,620	定例2回、常任役員会等
委員会費	130,000	122,480	新聞編集会議費等
事務費	3,210,000	3,013,373	
事務運営費	570,000	559,310	事務局員執務手当等
消耗品費	60,000	46,783	事務用品等
印刷通信費	2,330,000	2,306,115	印刷費、郵送費等
名簿管理費	100,000	22,851	名簿管理費
備品費	150,000	78,314	パソコン、リモートシステムの整備費等
建設費	0	132,000	
旅費	10,000	6,000	
慶弔費	50,000	45,819	
母校協力金	0	0	
事業引当積立金	100,000	300,000	運営費基金積立
予備費	10,000	0	
小計	3,805,000	3,902,794	
次年度繰越金	221,874	291,774	
合計	4,026,874	4,194,568	

上記のとおり報告いたします。

茨城キリスト教大学短期大学部同窓会

シオン会会長 酒井 範雄

茨城キリスト教大学短期大学部同窓会(シオン会)会則

第一章 総 則

(名称・事務局)

第1条 本会は茨城キリスト教大学短期大学部同窓会(通称シオン会)と称し、事務局を日立市大みか町6丁目11番1号茨城キリスト教学園内、学園記念館に置く。

(目 的)

第2条 本会は会員相互の交流を図り、親睦を深め、学園の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 園遊会などの会員の親睦に関する事業
- (2) 会員の教養向上に関する事業
- (3) 会員名簿及び年度幹事名簿などの整備強化事業
- (4) 学園同窓会報における「シオン会だより」の発行
- (5) 学園発展のための募金活動
- (6) 本学園内他同窓会との交流と親睦に関する事業
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)

第4条 本会の正会員はシオンカレッジ、茨城キリスト教短期大学、シオン短期大学、茨城キリスト教大学短期大学部卒業生とする。ただし、中途退学者で会員の推薦がある場合には役員会の承認を得て、正会員にすることが出来る。

2. 母校の現・旧教職員は特別会員とする。
3. 本会会員は住所、姓名等を変更したときは、ただちに本会事務局に届け出るものとする。

第二章 組 織

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- | | |
|-------|---------|
| 会 長 | 1 名 |
| 副 会 長 | 若干名 |
| 理 事 | 20から40名 |
| 監 事 | 2 名 |

1. 専門委員 役員会の下に常設の専門委員会を置く。
2. 本会に名誉会長を置く。名誉会長は終身とする。
3. 本会に顧問を置く。

(役員を選出)

第6条 会長、副会長、監事は役員会で審議し、年度幹事総会において選出する。

2. 理事は年度幹事の中から選考して役員会で審議し、年度幹事総会において選出する。
3. 各種専門委員は、役員会において互選により所属を決定し、委員長は役員会で審議し選出する。
4. 名誉会長は、会長の在任期間に副会長及び事務局長の在任期間を加えて15年以上務め、本会の発展に著しく貢献した会長の退任時に、役員会で審議し、年度幹事総会において選出する。
5. 顧問は、役員会の推薦する者の中から会長が委嘱する。

(役員、名誉会長、顧問の任務)

第7条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は本会の会務を統括し、幹事総会、定例役員会、臨時役員会、常任役員会、その他の会議を招集する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長がやむを得ない事由があるときはこれを代行する。その順番は別に定める。
- (3) 理事は本会の運営にあたる。特に各種委員会や主な行事に積極的に参加し、大きな役割を担うものとする。
- (4) 常設の各種専門委員会の委員長は専門の課題達成の中心的な役割を担うものとする。
- (5) 監事は本会の会計及び支部活動援助資金に関わる会計監査報告書を会長へ提出するものとする。
- (6) 名誉会長は必要に応じ常任役員会、定例役員会、年度幹事総会に出席し、意見を述べる事ができるものとする。
- (7) 顧問は各種役員会に出席し、また、必要に応じ会長に意見を具申するものとする。

(年度幹事の選出と任務)

第8条 本会に年度幹事を置く。年度幹事は卒業年度ごとに、各学科より1～3名を選出する。任期は2年とし、再任を妨げない。

2. 年度幹事は各年度各学科を代表し、本会の最高決定機関である年度幹事総会に出席し、会の運営に責任を有する。
3. 年度幹事は該当卒業年次学科会員の住所等の情報と連絡に心がけ、園遊会等の主要な行事には積極的に参加するように努めるものとする。

(事務局)

第9条 本会に事務局を置き、本会の業務遂行に必要な事務事項を処理する。

2. 事務局長は学園に勤務する職員の中から選出することを原則とするが止むを得ない場合は学外から選出し会長が委嘱する。
3. 事務局次長は学外から会長が委嘱する。
4. 専従の事務局主事1名以上を配置し、会長が委嘱する。

(支 部)

第10条 本会に日立支部、水戸支部、東京支部を置く。

2. 会長は、各支部長に各年度事業報告書並びに会計報告書を求めることできる。

第三章 会 議

(会 議)

第11条 会議は年度幹事総会、各役員会とし、会長が招集する。

2. 会議の議長は会長があたり、議決は出席者の過半数をもって行う。

(年度幹事総会)

第12条 年度幹事総会は、つぎの事項を決議する。

- (1) 事業報告及び収支決算報告
- (2) 事業計画及び収支予算審議
- (3) 役員の変更
- (4) 会則の改廃
- (5) その他役員会が付議した重要事項

2. 定期の年度幹事総会は、毎年1回、5月中に開催する。さらに会長が必要と認めた時は臨時年度幹事総会を開催することができるものとする。また、疫病感染や天災が起り、定期年度幹事総会を開催することが困難である時には、会長は定期総会を书面審査によることのできるものとする。
3. 年度幹事総会は年度幹事が代議員となる。但し、8年に1度は同窓会総会を開くように努めるものとする。

(役員会)

第13条 役員会は次の事項を審議する。ただし、疫病感染や天災が起り、定例役員会を開催することが困難である時には、会長は役員会を

- 书面審査によることのできるものとする。なお、この場合には会長は、必ず、常任役員会を開催しなければならないものとする。常任役員会は会長、副会長(5名・含各支部長)事務局次長・事務局主事として構成する。(通称三役会)
- (1) 年度幹事総会並びに同窓会総会に提案する事業計画、予算、決算、規約改廃その他の議案
 - (2) 会運営に関すること
 - (3) 本会則以外の必要事項
 - (4) 会長が必要と認められた事項

2. 役員会は定例、臨時、常任役員会に分け、それぞれ会長が招集する。
3. 定例役員会は年2回とし、3月、9月に開催し、そのほか必要に応じて臨時役員会並びに常任役員会を招集する。

第四章 会 計

(経 費)

第14条 本会の運営資金は年度会費、シオン会活動援助資金、父母の会からの園遊会運営資金、寄付金、広報広告費、事業収益金、その他をもって当てる。

- これとは別に学園がシオン会だより・学園同窓会便り経費を用意する。

(年度会費)

第15条 本会会員は2004年度から年度会費1,000円を納入する。3年に1度3,000円を纏めて、郵便局にて指定の同窓会口座に送金するものとする。

- ただし、当面の間、第1回～第15回卒業生は終身会費10,000円を選択することができる。

第16条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付 則

本会は1951年(昭和26年)シオンカレッジ同窓会発足し東京支部を置き、活動を開始した。会長吉田丈夫、副会長沼鶴彦、名誉会長総長EWマックミラン就任。

本会則は1963年4月1日より施行する。

同 1977年11月3日一部改正する。

中間省略

同 1999年11月23日一部改正する。

同 2004年11月23日一部改正する。

ただし、年度会費は2004年度から収納を開始し、2005年度予算から計上する。

同 2006年11月23日一部改正する。(事務局学園内)

同 2009年11月23日一部改正する。

ただし、2010年度の会計年度は2010年10月1日から2011年3月31日の半年とする。半年分500円を納入する。

2011年度からの会計年度は2011年4月1日から2012年3月31日の1年間とし、以降会計年度は同様とする。

同 2016年5月29日一部改正する。

同 2020年8月6日一部改正する。

同 2021年4月25日一部改正する。

同 2022年4月23日一部改正する。

本会会員の皆様へ

本会活動資金に充当する寄付金募集のお願い

本会会員の皆様には既にご存知の通り、平成四年度から始まった日本の十八歳人口減少による志願者の減少に対応して高等教育機関は多様な資格取得化、共学化、短大の四大化等、学生確保の対策の強化が図られました。本学園理事会(以下理事会という)は一九九九年に日本最古の我が短大を茨城リスト教大短期大学部に名称変更し、二〇〇〇年四月に大学は文学部と生活科学部と短期大学の三学部からなる新生茨城キリスト教大をスタートさせました。その後二〇〇三年になると、大学短大部の全教員と事務職員を大学に移籍、大学短大部の全資産・学生定員を大学に移管し、一八、〇〇〇名余の卒業生の学籍・成績原簿等は大学教務部・学生部で永久保存することになりました。その上で、大学短大部学生募集を停止させました。それから後二〇〇六年には卒業生はいなくなり廃止になりましたが、これは大学短大部の廃止ではなく発展的に改組させて大学を拡大発展させる為の措置であり、理事会が学園の将来に希望をもたすために決断した措置であります。これに伴い理事会は大学短大部同窓会組織の維持を重視し、更なる活動の為に学園の資金援助により同窓会の存続と活動について万全を期すことになりました。

また、二〇〇四年には中高共学完全一貫教育制度が実施される等連続して減少する少子化に対応させる為の平成の学園教育構造大転換をさせたものであります。

これまで本会の行事は大学短大部の支援の下に活動してきましたが、代わりに今後は理事会から運営費の一部の支援を受けながらも実質的には自力で運営資金を確保して、本会が自力で活動を行う事になります。従って、理事会の要請もあり二〇〇三年から本会は年度会費、終身会費、寄付金の募集制度の導入と広告料獲得をする事になりました。(本会則第一四条)

本会は根本龍哉会長の下に再出発してから十九年経ちましたが、有難いことに年度会費や終身会費は毎年安定して納入して戴いております。また記念名簿出版では広告料でも会員の皆様にご協力いただきました。近年は寄付も増えており遺贈寄付のご連絡も戴きました。会員の高齢化も進んできております事から、改めまして事業活動資金の寄付金募集も随時受け入れておりますので、会員の皆様にご連絡とお願いを申し上げます。ご寄付については生前の寄付行為の他、遺贈寄付があります。これ等の寄付金は一〇年毎に行う周年事業や毎年行う園遊会など大きな

事業活動費並びに学園の行う記念事業への協力金支出等に充当することを目的としています。寄付者のご芳名は希望する方にはホームページやシオン会だよりに掲載させていただきます。

① 寄付金額は任意額とします。
② 生前の寄付とは、年会費以外に本人の相続発生前に寄付したいと考えて申し込みされた寄付金となります。
③ 遺贈寄付とは、(イ)遺言書による寄付受け入れとなります。(通例遺言執行者から匿名で事前に連絡が行われるものです。)(ロ)本人が生前から本会に心を寄せていて寄付したいという意志を尊重し、遺族の相続人から寄付の申込が行われるものです。

④ 寄付の宛先は学園寄付とは異なりますので、必ず「茨城キリスト教大短期大学部同窓会シオン会」を明示をお願いします。

ご連絡先は、本学園記念館(同窓会館)茨城キリスト教大短期大学部同窓会シオン会事務局にお願いいたします。(毎週木曜日午前10時〜午後四時まで業務をしています)

⑤ 税金控除の対象にはなりません。

何卒、本会の持続可能な活動維持の為、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

茨城キリスト教大
短期大学部同窓会シオン会

大学名誉教授及び大学短期大学部学部長並びに本会顧問瀧田薫氏の学園退職記念スピーチ報告

令和四年三月十二日に令和三年度第二回定例役員会開催に先立ち、瀧田顧問に花束と記念品を贈呈し、先生の最後の記念スピーチを戴きました。

先生は慶応大学院博士課程修了後、昭和四十八年四月から茨城キリスト教短期大学非常勤講師として五年、その後専任教員四十一年計四十九年間勤務され満七十五歳で退職されることになりました。その間平成八年に本短期大学学長として六年間、本大学短期大学部の学部長を二年間、さらに平成十五年頃から本学園常務理事を一〇年五カ月務められ、本学園の短大と大学の統合更には生活科学部、看護学部の設置、学園ブランドデザインを推進し、学園の発展に尽力されました。本同窓会顧問には本短大学長就任時からこれまで本会に寄り添いご指導を戴きました。本学園の教職員は退職されますが、今後とも本会の顧問を続けて戴く事になりました。

教育改革を行ったこと、令和時代に入り第二期十八歳人口の急減期とデジタル化社会に対応できる教育内容の大転換が必要になっている事、さらに激増する高齢労働者の労働移動の為に生涯学習の必要性について語られました。高齢化が進んで行く本会会員にとっても非常に有意義なお話でありました。本当に永い間ご指導いただき有難うございました。これからもご健勝にて活躍をご祈念申し上げます。

教員生活を終わるに当たり、記念のスピーチを戴きました。いつもの通り熱い語り口で、平成時代の第一期十八歳人口の急減に対応して短大と大学を統合させ学園



根本会長、酒井事務局長の退任 感謝状贈呈報告



二〇二二年五月十四日、水戸レイクビューにおいて、根本会長と酒井事務局長の退任にあたり感謝状と記念品を贈り、懇談の一時を持ちました。根本会長の挨拶では、大学短期大学部が大学に改組転換され学園中学校・高校も統合し一貫教育校になるという本学園の平成の教育大改革が行われました。その結果本会は平成十五年から本学園の支援を受けながらも独力で活動しなければならぬという難局に直面する中で、会長を引き受けてから十九年が経ちました。この間故吉田元会長、故鍋田・宮本・霜峰・河野副会長それに現野澤・岩淵・中村(純)・細谷・庄司副会長・前嘉成副会長と前横須賀事務局長、現酒井事務局長、大島事務次長、梨子下事務主事や多くの役員の皆様さらに会員の皆様にご多大なるご協力とご支援を戴き感謝しています。



本会役員Zoom講習会開催の報告

令和四年に立派な第六代酒井範雄会長に引き継ぐ事が出来ました。これからは新会長の下で、さらに会員の絆を強め、本会の発展の為に尽力していきたいとお礼の言葉がありました。次に酒井新会長からはこれまで事務局長として皆様の絶大なご支援とご協力を戴き、無事役割を果たすことが出来ました。これからは根本会長の後を引き継ぎますが、これからはウイズコロナとデジタル化さらに超高齢化社会となり生活様式も激変

十月上旬に学園情報センターにおいて本役員を対象にしたズーム講習会を行いました。今もコロナ禍社会が続いていますので、役員会に直接参加できない役員もリモートで参加できるようにしていきたいと思えます。これまでどおり役員の総意で運営していきたいようにしていきたいと思えます。近年、グローバルやスマートフォンの普及等でデジタル化・オンラインでの情報の時代ですが今後も、社会の変化はさらに進むことと思います。少しでも会員の皆様に役立つ活動につなげる努力をしたいと思えます。



各支部だより

水戸支部

水戸支部活動報告

水戸支部長 庄司 良子

コロナ禍の中、水戸支部の活動もこの三年余にわたりほとんど活動をみあわせておりました。役員会は年数回開催して情報交換等をしてまいりました。過日の役員会にて(九月十九日実施)コロナも収束きみに入り支部としてもそろそろ活動しても良いのではとの話し合いが出て、支部総会を十一月二十三日(祝日)京成ホテル景山にて開催いたしました。出席者は十六名、総会では事務局のいいいな説明により、今後の活動のあり方、役員改選について審議いたしました。

新役員について紹介いたします。副会長 岩淵延子(二二回)、事務局長 佐藤光正(四回)、監事 細谷由紀子(二二回)、監事 吉成浅子(二五回)の方々を新しく選出いたしました。これからは、この新体制で活発な支部活動を行ってゆきたいと思えますので、ご協力・ご支援よろしくお願いたします。

総会後、午後一時より水戸大手門歴史探訪を講師の薄井俊平氏(水戸市教育委員会事務局教育部 歴史文化財課 文化財係長の説明により大手門を中心にして約

一時間にわたり説明いただき見学を実施いたしました。今後、いろいろな行事を計画して皆様とも楽しい同窓会にしたいと思えますので、お誘い合わせの上多数の参加をお願いいたします。

日立支部

「秋の寄せ植え」講習会

日立支部長 中村 純子

十一月十一日 学園記念館にてフェアリーガーデンの先生をお招きして「秋の寄せ植え講習会」を開催しました。三年ぶりの支部活動でしたが二〇名の参加者の皆様と、生活に彩りを添える体験ができました。

直径三〇センチの花鉢に小さな世界が完成し春を迎える準備が出来ました。花々を扱うコツと植物の特性の話、成長のさせ方など、沢山の質問にも丁寧に詳しくお話をし、頂き楽しい学びの時間を皆様と共有し有意義なひと時となりました。

一日も早く日常が戻り、新しい世界が見たいと思っています。





ロシアによる ウクライナ戦争を考える ―狂ってしまった平和―

文学部現代英語学科 講師
ジャブコ・ユリヤ

二〇二二年二月二十四日、ウクライナ人にとって当たり前の世界が崩れ始めた。東部のウクライナで約八年間続いていたロシアによるハイブリッド戦争は全面的な規模になつてしまった。二月二十四日のウクライナの朝四時半ごろ、世界第二位の軍隊を持ち、世界最大の核兵器を保有しているロシアは北、東、南から本格的な軍事侵攻を開始した。この日以降、ウクライナ人の日常は人間が想像できないような悪い夢のようである。全世界の人々は日々インターネットを通して、ロシア軍がウクライナの民間人や子供に対して行っているホラーのような非人間的な行為を見ている。

現在もロシア軍はインフラ、病院、教育施設など多くのものを破壊し続けている。毎日ミサイル、爆弾、戦車による攻撃を受けている一〇〇年以上の歴史があるキーウ市、チェルニヒウ市、ウクライナの初の首都であるハルキウ市、ヨーロッパ最大ザポリージヤ原子力発電所の様子を見ると、辛さ、怒り、そして絶望感を感じる。そして何よりも、ロシアはウクライナに住んでいる人々の命と生活を奪

い、ウクライナの主権を踏みにじつて、悲惨な犯罪を犯している自分の行為を正当化しようとしている。二月二十四日以降、数千人のウクライナの民間人が亡くなったこと、現在も罪のないウクライナ人の命が奪われ続けていることを決して許してはいけない。ロシア軍に一ヶ月間占領されていた首都キーウ近郊のブチャ市、激しい攻防が続いていた南東部マリウポリ市、そして今年の夏によく奪還された東部イジューム市は、ロシア軍が行った「戦争犯罪」と「ジェノサイド」の代名詞のようになっていた。ブチャ市とイジューム市だけでも民間人を中心に四〇〇人以上が殺害されたと見られている。また、マリウポリでは二〇〇以上の墓が並んだ大規模な集団埋葬地が見つかった。無抵抗の男性への銃撃、女性や子供への性暴力、あらゆる形の無差別攻撃と残虐さの証拠は数えきれないほど多い。

ロシアは、ウクライナ人が最も望んでいる「自由と平和」を無視し、悲惨な戦争を続けている。今ウクライナ人はウクライナの平和を取り戻すために、軍事的・政治的・情動的にロシアに打ち勝ち、ロシアをウクライナの領土から追い出す必要がある。平和のためには、この戦争に勝利するしかない。平和のために戦争をする。理不尽な言い方かもしれないが、狂ってしまった世界で、狂ってしまった平和の本当の意味を取り戻さなければ、ウクライナ人は明日ロシアに殺され、ウクライナが存在しなくなる。ウクライナが自由を望む気持ちに違いはないが、全世界と一緒に様々な方法で戦ってくれないければ、我々ウクライナ人は自分の国家・自分の実家・自分の家族を失ってしまう。



『中澤敏子・中澤敦子 探し求める心 今も やまず』を発売して



生 了 修 院 大
子 敏 子 敦 子
つ せ 賀 額

九十歳の中澤敏子さんは昨年十二月に演奏会を開催しました。また、敏子さんの妹敦子さんは朝ドラ「ひよっこ」の方言指導者で八〇歳です。年を重ねても

探し求める心を持ち続けているふたりに、それぞれの生き方を取材しました。
姉の敏子さんは常磐小学校に入学しましたが、母親は学校の先生にと附属小学校に転校させました。そこで洋楽の先駆者橘はや先生の歌を聴きシヨックを受けたようです。
水戸高女・師範学校女子部を卒業し、五軒小学校へ一年間勤務後に、東京藝術大学委託声楽科に入学しました。卒業後土浦二高で八年間音楽教諭、水戸二高に異動し、全日本合唱コンクールで一九七七・七八年連続金賞を受賞しました。退職後は声楽家として自己教育と地域のコーラス指導を行っていました。
七一年から県民文化センター友の会の新春声楽コンサートを五十二回、七八年からは県芸術祭日本の歌声演奏会を四十三回、主になり実施しました。指揮者やピアニスト、声楽家を輩出し、教え子たちもまたそれぞれに多くの教え子を育てています。
妹の敦子さんは、師範女子部附属愛宕小・中学校、水戸二高を卒業しました。舞台俳優になるため日大演劇部を希望しましたが、親の希望は次大でした。敏子さんが親を説得してくれました。

名人やジョン・レノン、李恢成、ルーブル美術館館長など国外の人も来店していました。その後店のオーナーになり、テレビに出演していましたが、リーマンショックや年齢のことも考え、一三年水戸へ戻り「シャンソンカフェループル」を開きました。朝ドラ「ひよっこ」の方言指導の時は東京と水戸の往復でした。二〇年にコロナの影響で閉店しましたが、今もシャンソンコンサートを続けています。
夏休みのインターシップの思い出
私は大学の文化交流学科に所属しています。文化交流学科は、ボランティア、歴史学、観光学を学ぶ学科です。
高校ではインターアクト部に所属し、色々なボランティア活動をしていたので、大学に入ってからより深く学ぶことができました。興味のある歴史の授業は高校では内容でとても面白く、刺激を受けます。
また卒業後は観光業関係に就職したいと考えています。そのほかにもバイトにも励んでいます。人と接する仕事がしたくて



大 学 2 年
渡 邊 愛 海

レストランで接客業をしています。混んでいる時は大変ですが、常連さんが声を掛けてくれて軽い会話もします。そういうときは疲れが飛びます。そして、今年の夏は長期インターンシップに初めて参加しました。

場所は軽井沢の観光ホテルです。参加しようと思っただけは、観光業の中でも特にホテル業に興味があったからです。

レストランでのアルバイトを生かし、新たな環境でたくさん学ばないと思いません。

主な仕事内容は宿泊されるお客様の朝夜のバイキングの準備、片付けです。またお祭りのゲームのお手伝いもしました。

笑顔であいさつすること、またお客様が困っていたらいち早く駆けつけることを目標にしました。

そして、お客様からの沢山の「ありがとう」という言葉を頂きました。とても嬉しく改めて接客業の良さを感じました。

また、全国さらに、国内外の様々な地域の方と友達になることができました。国外では韓国、台湾、ベトナムの方がいました。その友達と休日には軽井沢でショッピングをしたり、テーマパークで遊んだのも大切な思い出です。

大学ももう二年が過ぎようとしています。入学当初は戸惑うことも多く慣れるのに大変でしたが、今思うとあつという間でした。

今後は就職を真剣に考える時期になります。

大学インターンシップ、バイト等で得られた貴重な体験を生かし、そしてこれからも色々な事にチャレンジする心を忘れずに、自分を磨き今後の糧にしたいです。

夏休みのインターシップの思い出



茨城キリスト教学園 高校3年 小泉 空

私は、この学校に入学して初めてキリスト教と出会いました。高校二年生の時、近所の牧師先生が、学校の礼拝でお話をして下さったことがきっかけで教会に通うようになりました。

教会は、学校とは違った雰囲気、とても新鮮でした。毎週教会に通うにつれ、自分自身を多面的に見つめることが出来、たくさん学びがありました。辛いことがあった時は、牧師先生が伝えてくださった言葉にたくさん救われました。

私は、教会に行くときクリスチャンの方々に対し、少し疎外感を持っていました。そんなある日の礼拝のお話で、私の心の中にあつた疎外感という気持ちがなくする経験をしました。旧約

聖書のハガイ書二章七節の「この神殿を栄光で満たすもの」という聖書の箇所のお話で、「私たちが満たすものとは何か」というお話でした。その中で、イエス様を求めていくことが私たちが求めることだと学びました。そして、それはどこにいても、どこに行っても、人々と一緒に「イエス様と集まるもの」になっていくことが大切だということも学ぶことが出来ました。

このお話の最後に、牧師先生が「これはクリスチャンであつてもクリスチャンでなくてもみんなが大切です。私たちの教会は、イエス様からたくさんのお話を伝えられ、教えていただき、その喜びを多くの方々に知ってもらいたいです。」と言われました。

この時、クリスチャンではなかった私には、教会に通う大切さを改めて感じる事が出来、学びも大きかったです。また教会に通うクリスチャンの方とも出会ったことが出来て良かったです。

私の通っている教会は、教会付属の保育園があるため、小さい子供からお年寄りまで幅広い年代の方が多いのでとても親しみやすいです。初めは、教会に行くことに緊張していましたが、今では毎週日曜日に聞く牧師先生のお話が週間になり、楽しみです。この学校に入学し、このような出会いに感謝してこれからも教会や学校で聖書のことをたくさん学んでいきたいです。

コラム



第17回卒業生 第10回修了生 セラー・カウンセラー 大島 澄江
学校心理士・教育相談員

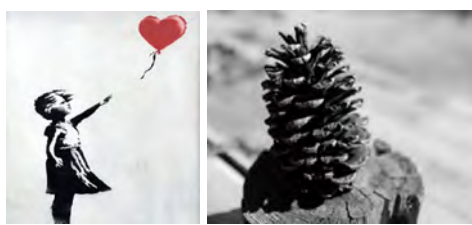
偶然の出会いと気づき

新型コロナウイルスで生活様式や価値観の見直しの事もあり、物質な豊かさよりも心の豊かさが求められているウエルビーイング(肉体的にも精神的にも社会的にもすべてが満たされた状態。世界保健機関憲章で、広い意味での健康を表す言葉)に注目すると、持続可能な開発目標(SDGs)の導入や働き方改革などにより幸福度に向けた経営に取り組み企業が増えてきた。台風八号が去った朝の涼しい時間帯で散歩中に、大きな松ぼっくりが転がっていた。拾い上げて眺めながら歩き、懐かしい唱歌「まちはうけ」北原白秋作詞・山田耕作作曲の歌を思い出していた。

♪待ちぼうけ待ちぼうけある日せっせと野良かせぎ、そこへ兎が飛んで出て、ころり転げた木の根っこ♪「韓非子」の故事に一度味わった幸運に執着している時に応じた物事の処置ができていないという意味を思い出した。午後は、新盆従弟宅で、偶然にストリートアーティストバンクシー展の代表作「風船と少女・Girl with Balloon」トートバッグ

クシオルダーにプリントされたお土産を頂いた。社会への風刺や平和への願いなど様々なメッセージが込められている作品だけに感激でした。ロシアのウクライナ侵攻で現代も戦争が繰り返されている中、茨城キリスト教大学リビウ市出身U.A講師ジャブコ・ユリヤさんの講演に同大の留学生、マルタ・イリヨさん(二十一才)も駆けつけて衝撃からの日々を聞くことができました(五月十九日・キアラ館)。忘れては、ならない四つの日をテレビで見ました。六月二十三日「沖繩慰霊の日」・八月六日広島市・九日長崎市「原爆の日」そして八月十五日「終戦記念日」全国戦没者追悼式を正午の時報に合わせて共に黙とうし、戦禍を二度と繰り返さないよう世界中が平和で穏やかな幸せな生活になりますようにとお祈り致しました。「ゆっくりでも自分が、今できることを行動していこう」と思いました。

また、本会の持続可能な活動と顧問就任を染谷智幸先生、堀口悟先生のご承諾を戴きましたこと、心より感謝申し上げます。



第37回 園遊会のお知らせ

今回の園遊会は卒業生と旧教職員が対象となります。新型コロナウイルス感染症対策のため、完全予約制となりますので、同封の葉書にて4月12日(水)までにお申し込み下さい。

- ◆日時 2023年4月29日(土・祝)
受付：12:30～(飲食はありません)
開会：13:00～16:00
- ◆場所 大学新1号館5F グローカルラウンジ
- ◆内容
 - チャペル
 - 小音楽会
 - 懇談会
- ◆参加会費 個人：1,000円(記念品を用意しております)
- ◆申し込み 完全予約制となりますので同封の葉書にてお申し込み下さい。



※当日体調のすぐれない方は御遠慮願います。

◇今年もまたコロナウイルス感染症の第六波(二月)と第七波(八月)により長い自粛生活を余儀なくされてきました。やっと「収束しつつある」ということで、行動制限が解かれ経済活動が再開されてきました。大変嬉しい事です、手ばなしで喜ぶ事なく予防のため身につけた習慣を守りながら、楽しい日常に戻って行きたいものです。医療機関の方々には今年も心から感謝すると共にお礼申しあげます。

◇近代陶芸作家の先駆者として知られる板谷波山画伯が今年生誕百五十年を迎えました。出身の下館市には波山記念館が建てられ東京田端から移築された窯作業所を見る事ができます。陶芸品は東洋と西洋の伝統を独自の発想と工夫で融合した絶妙な色調と繊細な絵

編集後記

シオン会会費納入並びに住所変更届出のお願い

シオン会では様々な活動を展開する為に卒業生の皆様に会費の納入をお願いしております。2022年度から2024年度までの会費3,000円を同封の振り込み用紙により2023年10月末日までに納入くださいます様お願い致します。

但し、第1回から第15回の卒業会員には終身会員制度を選ぶことができます。終身会費は10,000円です。

なお、納入者一覧は茨城キリスト教大学ホームページ同窓会欄シオン会のページに掲載いたします。

これまでに住所変更届を済ませていない方や、不明になっている方は、是非現住所をお届け下さい。

□同窓会事務局(毎週木曜日)
〒319-1295
茨城県日立市大みか町6-11-1
TEL&FAX: 0294-52-8899(留守電可)
E-mail ic-dousou@icc.ac.jp
URL <http://www.icc.ac.jp/shionkai/>

付けをした幻想的なものです。その他「しもだて美術館」や「廣澤美術館」で鑑賞する事ができます。

◇コロナとインフルエンザの同時流行による第八波に入ったといわれておりますが、三蜜を守って心豊かにすごしたいです。

◇二〇二二年四月根本会長さんの退任により新会長に酒井範雄さんを迎え、シオン会役員一同、心一つにして暖かな会になるよう協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

◇第三十七回園遊会も今までは違った楽しい集いにしたいと考えましたので、どうぞ御気軽に参加して頂きますようお願いしております。

◇お忙しいなか原稿頂きありがとうございます。お礼申しあげます。

編集委員長(第十二回卒)

岩淵延子